

国連NGO横浜国際人権センター・うずしおブランチ T-over人権教育研究所・人権こども塾ニュース

人間としての生き方を考える道徳教育と同和教育⑥ ～資料「ナイン」と同和教育の根本は同じ～

人間の生き方について考え、絆をつくっていく

「私たちは、この特別公開授業で、板野中学校を代表して授業をすると聞いたとき、私たち3年B組は同和問題の学習をするもんだと思っていた。

でも、直接同和問題に触れない資料をすることによってやりにくいと思っていたけど、結局同和問題の学習も道徳の学習も、人間の生き方について考え、仲間との絆をつくっていくものだから、みんなからいろいろな意見が出たと思うんです。」

この仲間の語りが、クラス全体に広がり、様々な思いが語られていきます。

S・Nの語り「クラスの信頼関係と平行して考えると、『ナイン』の本質が理解できる」

私もS・EさんやY・Iさんの意見に付け足すんだけど、「ナイン」の資料を2回、3回と読んでいくうちに、段々いろんな考えが生まれてきたし、クラスでも意見の違う人がたくさんいて、話し合いも盛り上がっているんだけど、どうしても私は考えが変えれんというか、こだわっていたところがあるんだけど、今までの同和問題学習で築き上げてきたクラスの信頼関係と平行して考えていくと、「ナイン」の奥に流れているものがよくわかってきたんです。

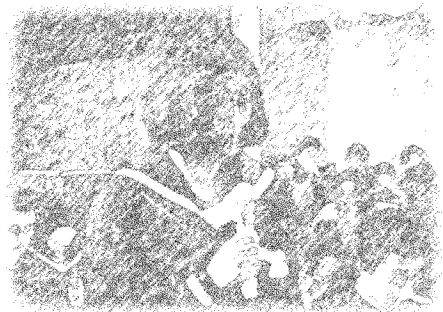
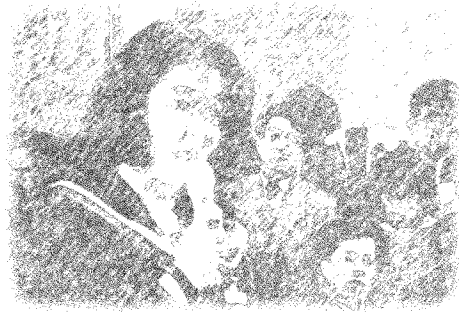
資料「ナイン」だけで考えていったら、今のような発表とか私の発表とかはなかったと思います。

心を一つにして同和問題について学んできたから、いろんなことが考えられて、発表ができるんだと思います。

J・Kの語り「みんなの支えがあって、部落出身を打ち明けることができた」

私も、「ナイン」とクラスの関係は似ているところがあると思います。

私も前にみんなを信頼して自分の一番つらい部分である部落出身ということを打ち明けたんだけど、周りの子が支えてくれたときはうれしかったです。最初はすごく迷ったけど、みんなが支えてくれたので語ることもできました。



K・Oの語り「本心を語り合うことで、日陰をつくり、日陰に入っている」

私も、3年B組と「ナイン」は、そのまま同じだと思います。自分の一番わかってほしいことを語り、その語りをみんなが受け止め、みんなが支えてその子の「日陰」になっています。

このクラス全員が、自分の思いを語り合うことで、日陰をつくり、日陰に入っているんだと思います。

K・Hの語り「資料『ナイン』と同和問題学習の資料も根本は同じ」

僕も「ナイン」と「3年B組」は、同じだと思いました。この「ナイン」の資料と同和問題学習の資料も根本は同じではないかと思っています。僕は、高校に行って困難にぶつかることがあっても、今まで僕を支えてくれた仲間とか、3年B組のみんなのことを思い出して、自分で自分自身を励ましながら頑張っていくことができると思います。



本気の人権学習は、——「すべてを変える」 うずしおブランチ共同代表 森口 健司